

第二期 里山はっけん隊

里山（柳谷）歳時記



第二期 里山はっけん隊活動記録

（平成22年度（夏・冬）23年度（春・秋）

茅ヶ崎市環境政策課／協力 柳谷の自然に学ぶ会

平成24年3月

やなぎやと 里山（柳谷） さいじき 歳時記

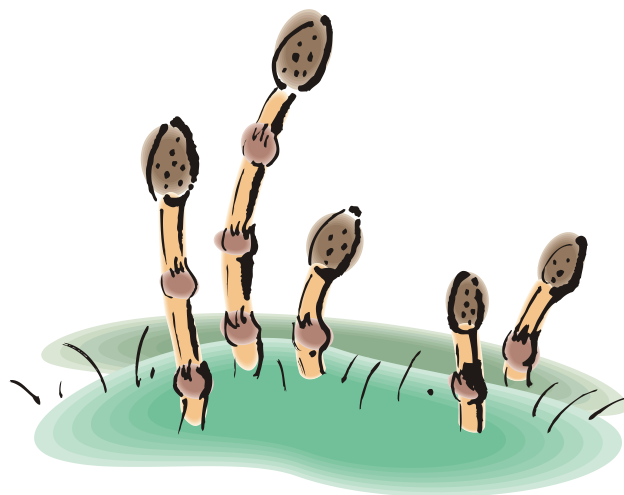
はじめに

これは第二期「里山はっけん隊！」午後のワークショップの常盤良夫さん（柳谷に先祖何百年もの間ご在住の方）のお話を基に、四季折々の柳谷の暮らしが分かる記録として作成しました。里山で長く農業を営み、暮らす方のお話は、口承で伝えられることその他、文書記録として残さない限り、消えてしまうものです。全国的にも里山は減少傾向にあり、その暮らしをされていた方々も少なくなってきたおり、文書として茅ヶ崎の里山の様子を残すことが重要と考えています。この歳時記が参加者の皆さんの思い出となり、また後世に伝える役割も果たせたら幸いです。

また、この活動に参加していただいた沢山の子どもたちにこの場を借りてお礼を申し上げます。ぜひ体験されたこと、感じたことなどを未来に伝えてください。ご参加いただき、誠にありがとうございました。

茅ヶ崎市役所／柳谷の自然に学ぶ会

※ 当文書内における「里山」とは
県立茅ヶ崎里山公園内に位置する
「柳谷」のことを指しています。





もくじ 目次

はじめに・・・ p 2

里山（柳谷）のご紹介・・・ p 5

春の里山の暮らし・・・ p 8

夏の里山の暮らし・・・ p 11

秋の里山の暮らし・・・ p 18

冬の里山の暮らし・・・ p 23

※季節ごとの里山の暮らしの間に《「里山の日常生活」と「季節ごとの里山の生き物」》をご紹介します。

第二期里山はっけん隊！の軌跡・・・ p 2

主要文献目録・・・ p 38





ぼくはチ一坊、茅ヶ崎市柳谷に住む小学4年生。

おじいちゃんから昭和の初めころ（1955年）、今（2012年）よりも60年くらい昔の柳谷の話聞いたよ。



私がチ一坊の爺じ、「チ一爺」だよ。昔の柳谷の暮らしをご紹介します。



里山（柳谷）のご紹介

今では県立茅ヶ崎里山公園として整備され、休日ともなると多くの人で賑わう柳谷ですが、昭和のはじめ頃の柳谷には6軒以上の家が建っていました。

しかし、農業が大変なため、昭和30年くらいには3軒に減ってしまいました。その中でも農業だけを収入源とする専業農家は常盤さんの家だけでした。

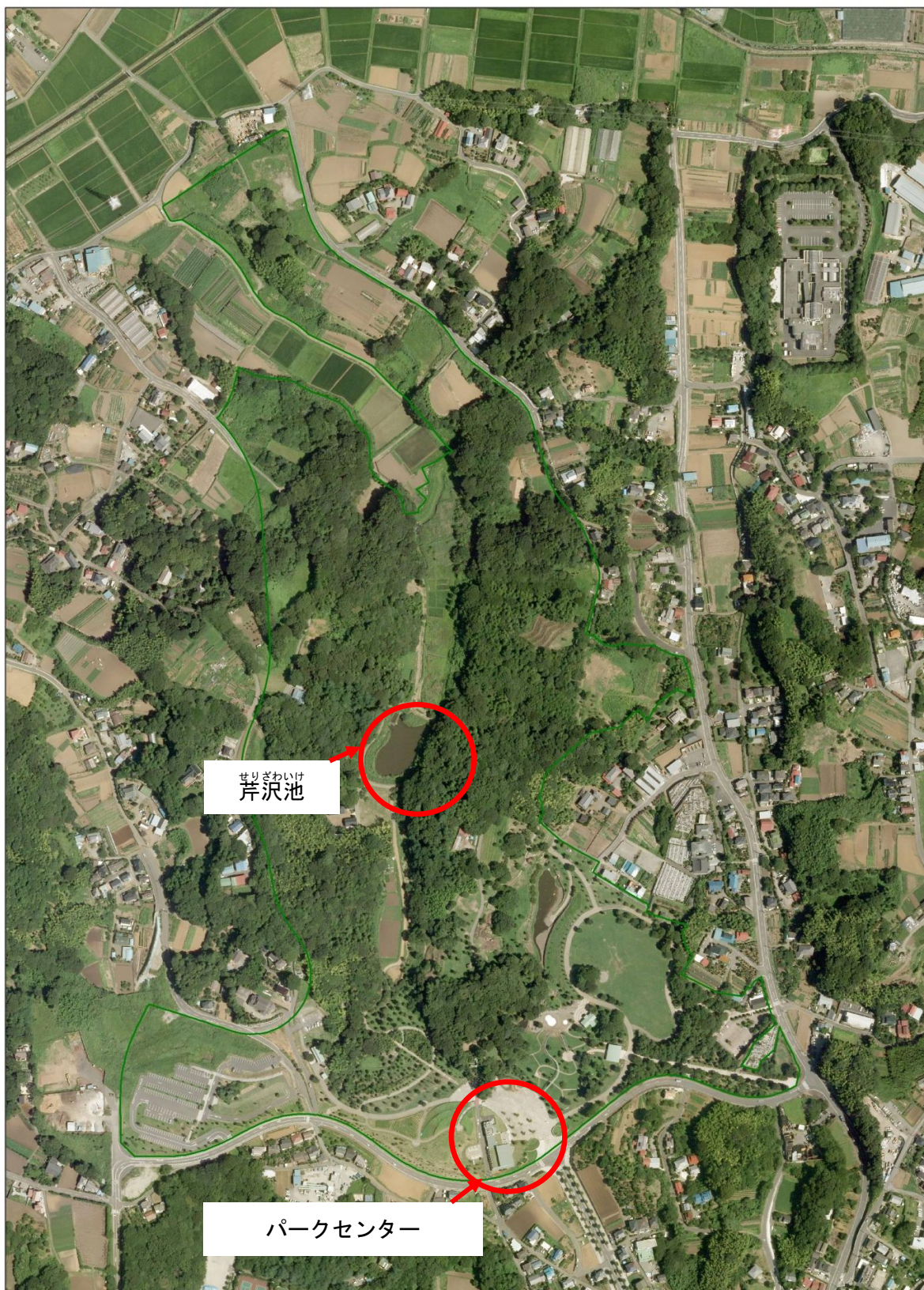
県立茅ヶ崎里山公園の成り立ち

県立茅ヶ崎里山公園は、「北部地区の地域活性化の核となる自然環境を活かした広域公園の設置を」との茅ヶ崎市の要望を受けて、現在の茅ヶ崎市周辺では希少になった、谷戸地形上に樹林地、田畑、湿地などの多様な環境からなる「里山」の自然が残る場所である柳谷が平成3年、神奈川県第二次新神奈川計画改定実施計画において県内19番目の新規県立公園として位置づけられました。

平成5年に都市計画決定、平成6年に事業認可がされてから、逐次整備が進められ、平成13年10月には一部開園されました。その後も整備が完了した部分が順次開園され、平成20年度末の段階では総面積の約54%にあたる19.8ヘクタールが開園されています。現在、平成26年春の全面開園に向けて整備が進められています。



平成2年 芹沢（県立茅ヶ崎里山公園付近上空）航空写真
 （※これは里山公園として開発される前に撮影されたものです。）



平成22年 県立茅ヶ崎里山公園上空（里山公園の敷地は緑いろの枠にて表示）

平成2年度撮影した航空写真と比較すると、平成22年度撮影の航空写真には、中央に芹沢池や南部にパークセンターが設営されたことがわかります。

航空写真：この地図・成果は測量法の公共測量に関する規定に基づき茅ヶ崎市長の承認を得て同市所管の測量成果を使用して調整したものです。



はる さとやま く 春の里山の暮らし



がつ 3月

はたけ
畑

お ば き わら たい ひ なえどこ
落ち葉や切り藁・堆肥をいれてサツマイモの苗床づくり。サツマイモは
あた 温 かい 気 候 で 育 つ 植 物。落ち葉で苗床を作り、サツマイモの苗が冷えるのを
おさ 抑えます。

4月

た
田

たがや
田を耕します（田うない）。

また、稲の種をまき、田植えができる
おお 大きさまで苗を育てる田（苗代）
を耕します（苗代の準備）。

はたけ
畑

3月に苗床においたサツマイモで
はつが 発芽している苗をとります。



田うない※1



なえどこ
サツマイモの苗床づくり※2

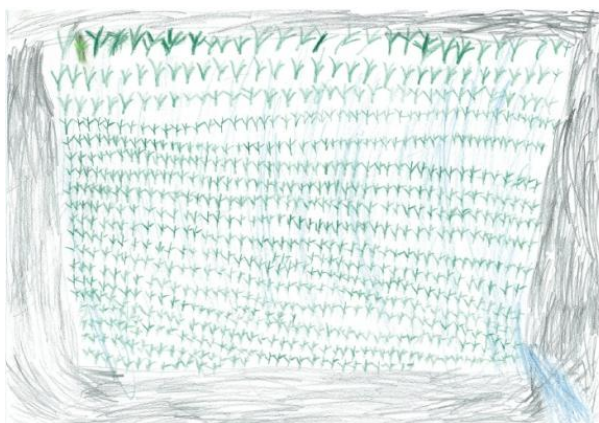
5月

田 ^{なわしろ} 苗代に^{たね} 稲の種をまきます。田は2回目の田うない（田おこし）、それからクロ（あぜ）づくりをします。

畑 サツマイモの苗を^う植えていきます。



苗代（芹沢）※3



くろつけ※4

	3月	4月	5月
おとこ ^{しごと} 男の仕事	サツマイモの ^{なえどこ} 苗床づくり ^{おちば} 落葉を入れる	田うない(田おこし) ^{なわしろ} ^{じゅんぴ} 苗代の準備	^{なわしろ} ^{たね} 苗代に種をまく 田のクロ（あぜ）づくり ^{むぎ} ^{あいだ} 麦の間に ^う さつま植え
おんな 女の仕事	苗床にサツマイモをならべる	サツマイモの ^{なえ} 苗とり	^に ^{ぼん} 二番うない(2回目の ^{たがや} 耕し) ^{たね} ^{てつだ} 種まき手伝い サツマイモ ^う 植え
こ 子どもの ^{あそ} 遊び・仕事	—	ザリガニ ^と 捕り	^{たこ} 凧あげ ^{しょうぎ} ^{たこ} 将棋凧

はる さとやま い もの いちれい 春の里山の生き物たち (一例)



ナナホシテン
トウムシの
幼虫を発見！



コブシ



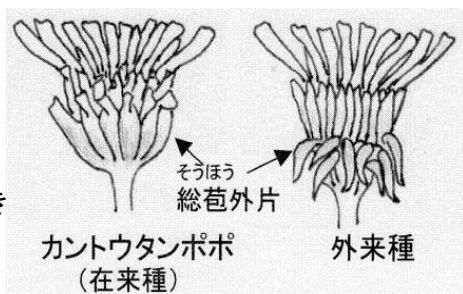
ざいらいしゅ 在来種（日本に 昔 からあ
った 植物）のカントウタ
ンポポと外来種（外国から
移入された植物）のセイヨ
ウタンポポの両方を見つ
けました。減少しつつあ
るカントウタンポポも
柳谷ではよく見られます。



ムラサキケマン



サクノオウ

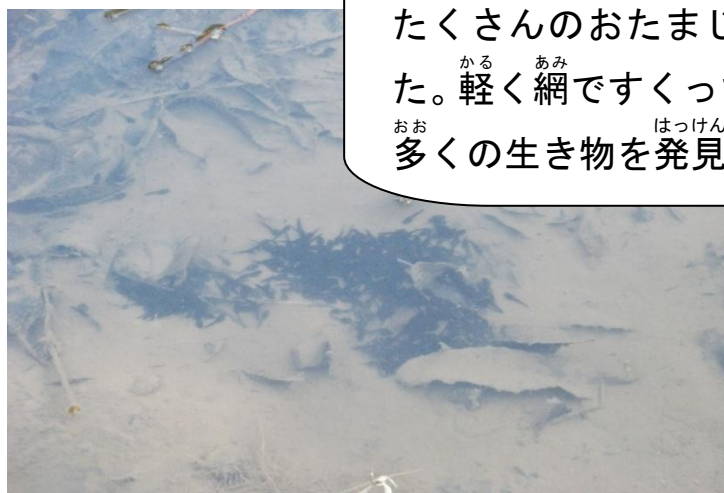


上向き

下向き

カントウタンポポ
(在来種)

外来種



柳谷池は水生生物の宝庫！

たくさんのおたまじゃくしが生息していまし
た。軽く網ですくってみると…他にもこんなに
多くの生き物が発見しました。





なつ さとやま く 夏の里山の暮らし



がつ 6月

田 いよいよ田植えの時期です。田植えは麦刈が終わった後に一家総出で行います。

お母さん、おばあちゃんが苗取りをし、その苗を横1列にならんで1さくずつ植えていきました。

畑 麦の刈り取りの時期です。畑が忙しい時は子どもたちも小学校は午前中に終わり、午後は大人のお手伝いをします。この麦の収穫時期はサツマイモ（10月）と稲刈り（11月）と合わせて年2回しかない現金収入の時期です。

7月、8月

田も**畑**も夏の仕事は草取り。毎日あけてもくれても草取りをしています。夏は手がある家は3回も草取りをします。

はんぼうき いそが
田の繁忙期はとにかく忙しい！

田んぼの時期はとっても忙しく、お昼ご飯のために、家に帰る時間も惜しいぐらいなんだって。今みたいに車があるわけでもないから、家と田んぼの往復の時間がもったいないから、お昼には田んぼにお弁当を持っていったって！。

お弁当は大きい重箱にご飯をいっぱい詰めたり、おかずとしてジャガイモを煮たものとかを持って行って、

みんなで分けたんそうです。

ほんとに忙しかったんだね。



野良での昼食（室田）※5

	6 月	7 月	8 月
男の ^{おとこ しごと} 仕事	むぎ か と 麦の刈り取り いね う つ 稲の植え付け はたけ くさ 畑の草取り	田の草取り サツマイモ畑の 草取り 田のあぜ草取り	サツマイモ畑の 草取り 田の草取り
女の ^{おんな} 仕事	なえ 稲の苗取り	田の草取り 畑の草取り	—
子どもの ^こ 遊び・仕事 ^{あそ}	なえはこ 苗運び ふ ろ わ 風呂を沸かす	—	—



稲の苗とり※6



田植え※7

子どもの遊び

この時期、畑や田んぼの手伝いの合間に、虫取り網で虫をとったりしました。虫とり網と言ったけど、君たちが使っている虫取り網とは全然違うものだよ。

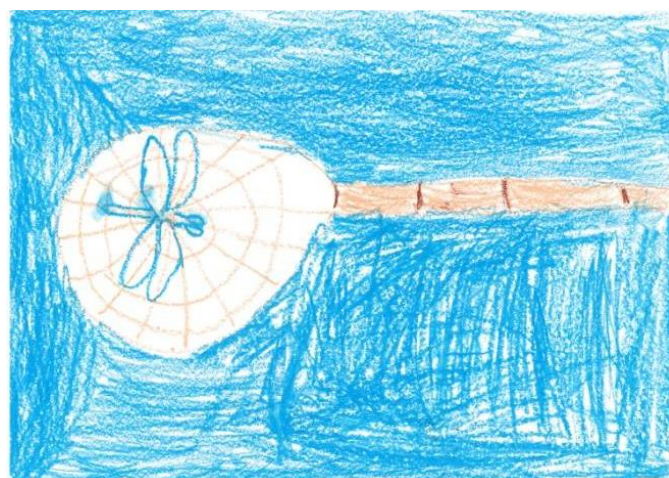
竹の細い所を丸くして、くもの巣をくるくるつけて、虫を捕まえました。



虫取り網は今のよう^うに売っている
ものではなく、自分^{じぶん}で作^{つく}ったんだ。

魚^{さかな}釣^つりもよくしました。これもし
っかりとした竿^{さお}があるわけではなく、
手作^{たけざお}りの竹竿^{ひつよう}です。竿^{さお}に必要な糸^{いと}は
テングス（テグス）※。うきは自分^{はりがね}
で作^{つく}る人もいました。針金^{えさ}はあまり
使^{つか}わなかったです。餌^{えさ}はイトミミズ
です。

昔^{むかし}の川^{かわ}にはドジョウやウナギ、メ
ダカがいました。今の川^{むかし}には昔^{むかし}の川^{くら}
と比べるとフナ^{おも}が多いように思^{おも}いま
す。



※昔^{むかし}のつり糸^がのテングス（テグス）とは、蛾^がの幼虫^{ようちゆう}から作^{つく}られ
るものだって。今^{いま}ではナイロンなどの合成^{ごうせい}繊維^{せんい}（主^{しゅ}に石油^{せきゆ}や石
炭^{せき}から作^{つく}られる）を使^{つか}っているよ。

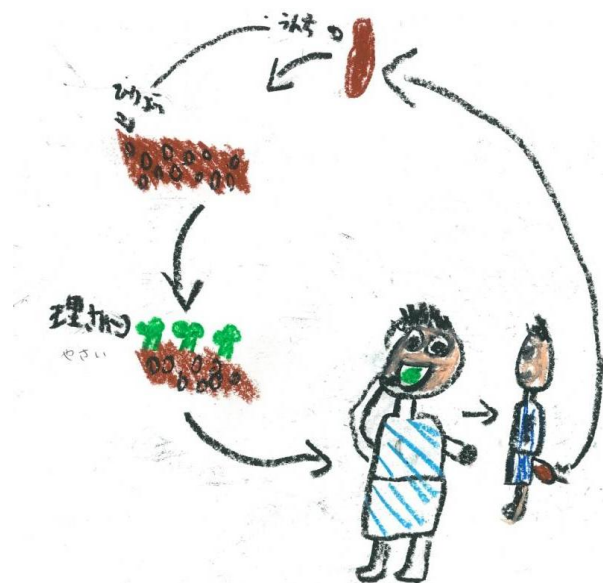


さとやま にちじょうせいかつ 里山の日常生活

ひりょう 肥料

田や畑で使う肥料は、今のような化学肥料はなくて、下肥（人のうんちやおしっこ）を使っていました。当時下肥は貴重で、わざわざ鎌倉くらいまで取りに行ったりもしていました。戦後は政府からの統制が厳しかったので、肥桶にお米を隠しもって、下肥と交換することもあったのです。

むかし
昔のうんちはとても
たいせつ
大切にされていたんだね。



ねんりょう まき 燃料 (薪)

ご飯を炊くときや、お風呂を焚くときにも燃料に使われたのが薪ですが、その薪は山の木々です。昭和35年くらいまでは木は薪として、燃料にしていたので、山には大きい木は全然なかったのです。木が貴重だったからこそ、森が荒廃しないようにきちんと考えて木を伐採していました。

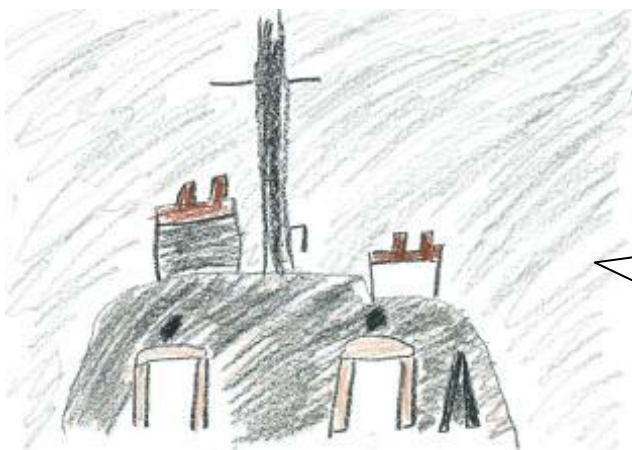


里山はっけん隊で、雑木林を歩いたときに、根株が複数に分かれている木をみたよね。株元が分かれているのは、昔、薪として活用していた証だって。



はん ご飯

ご飯は今のよう^{でんき}に、電^た氣^{すいはんき}で炊^もく炊飯器^はではなくて、かま^もどで薪^もを燃^もやして炊^もくかま^もど飯^はです。かま^もどでは常^{つね}に火^{ひつよう}の当番^{とうばん}が必要^{ひつよう}です。薪^おや落^おち葉^ばを燃^もやしたり、茅^{かや}や麦^{むぎ}わらを燃^もやしたり、常^{だれ}に誰^{だれ}かが火^{ひつよう}の当番^{とうばん}をしていました。



2010年冬^{ふゆ}のはっけん隊^{たい}で、釜戸^{かまど}で炊いたご飯^{はん}でおにぎり^{おにぎり}作ったね。とっても美味^{おいしい}しかったね。

ふろ お風呂

お風呂^{お風呂}は五右衛門風呂^{ごえもんぶろ}とよばれる^{ちゅうてつせい} 鑄鉄製^{ふろおけ}の風呂桶^{あたた}を火^{ふろ}で温めるお風呂^{お風呂}です。五右衛門風呂^{ごえもんぶろ}も場合^{ばあい}もかま^{かま}どと同^{どうよう}様に火^ひを焚^たき続^{つづ}ける必要^{ひつよう}があるため、常^{つね}にだれ^{だれ}かが火^ひの当番^{とうばん}をしていました。今^{いま}のよう^{いま}にボタ^{ボタン}ンひとつでお風呂^{お風呂}に入^{はい}れるなんて、昔^{むかし}と比^{くら}べると魔^{まほう}法^{ほう}のよう^{よう}な仕組^{しく}みです。



みず 水

水はガチャポン（^{て お}手押しポンプ）と
よばれる井戸から汲（く）んでいました。
^{やなぎやとしゅうへん}柳谷周辺ではどこでも6^{メートル}mくら
い掘（ほ）れば水（みず）がで（で）てきました。



せんたく 洗濯

^{かた}固い^{せっけん}石鹸と洗濯板^{いた}と木^{おけ}の桶^{つか}を使って洗濯をしていました。

子どもたちの仕事 しごと

田や畑で^{とう}お父さんや^{かあ}お母さんの手伝^{てつだ}
いをも^{きょうだい}ちろんしたけど、兄^{きょうだい}弟^{こもり}の子守も
しました。昔は兄弟が5、6人いるのが
^{ふつう}普通だったから上の子が下の子の面倒^{めんどう}
をみたんだよ。



なつ さとやま い いちれい 夏の里山の生き物（一例）



コモチシダ

崖などに垂れ下がって生えるやや大形のシダ植物です。シダ植物は孢子という小さい粒の集まりを葉の裏などに付け、その孢子が地面に落ちて新しい芽を出す植物です。コモチシダは孢子を葉裏につけますが、その他に葉の表面に小さな子ども（無性芽）ができることがあり、この名前がついたと言われています。



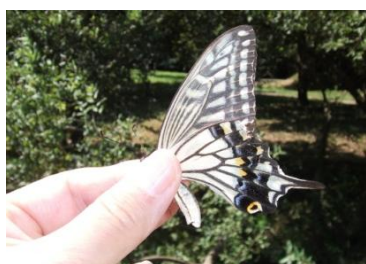
シマアメンボ

常に流れのある水質の良い水域に生息します。体長は5～7mm、ずんぐりとした体型をしていて、通常は翅を持たない個体が多い。茅ヶ崎市準絶滅危惧種とされています。



カラスアゲハ

幼虫はミカン科のカラスザンショウ、コクサギなどの葉を食べ、大型のチョウで4～9月に出現し、年2～3回発生します。森林地帯に多くおり、オスはよく吸水します。集団で吸水していることがあります。



アゲハ



ショウリョウバッタ



カラスウリ



アオスジアゲハ



ヤブガラシ



あき さとやま く 秋の里山の暮らし



がつ
9月



田んぼのクロ（畔）の周りや畑の草を刈るのがお仕事です。

10月

畑 春に植えたサツマイモのつるを刈り、芋掘りをしやすくします。今のように機械も車もなかったので全てが手仕事だったので大変です。3さく（さく：畑のうねを数えることば）くらいを鎌で切って、寄せながら芋を掘りました。掘ったものは当初は麦で俵のように編んだものに入れて出荷していました。その後は南京袋（麻袋）に詰めて縛って縛って出荷していました。子どもは、掘った芋を集めるのと、サツマイモを袋に入れる際に、袋の口を持つのを手伝いました。



全て手仕事だったために、10月は本当に忙しかったものです。家族3人くらいでやっても1日30袋位が限度。車がないので、リアカーで腰掛神社の下あたりまで運びました。リアカーに載せるのは1俵あたり40kg程度のものを6俵。当然1人では運べないので子どもも手伝って何人かで運びました。1日中仕事をしていても大した量はこなせなかったです。



しかし、早くしないと麦蒔きの準備に影響が及ぶので、芋掘りの時期は大変でした。芋掘りが終われば麦を蒔くために畑を耕します。今はトラクターで耕しますが、昔は鍬で耕しました。そのため、耕せる広さは1日ひとりで500㎡程度、朝早く行っても800㎡くらいです。

11月の霜がふる前までに麦を蒔く準備を行わなければいけないので子どもたちは半日の学校が終わり次第、大人の仕事を助けており、大人もあてにする労働力でした。



農作業を手伝う子ども（矢畑）※8

	9月	10月	11月
男の仕事 おとこ	田のクロの草刈り くさか	サツマイモ掘り 麦蒔きの準備 畑を耕す たがや	稲刈り 麦蒔き いね
女の仕事 おんな	畑の草取り と	サツマイモつる 刈り サツマイモ掘り	稲刈り 稲をかける
子どもの遊び・仕事 あそび	—	—	かけぼしの材料運び ざいりょう はこ



11月

田 麦蒔きが終わり次第、稲刈りです。今は10月の終わりくらいには刈り終わりますが、当時は11月に稲刈りをし、しかも機械で行うのではなく手で行うために、日数がかかりました。寒い時期にこの作業を行うことは本当に大変な仕事でした。

畑に入ると膝くらいまで潜ってしまうところがあって、潜ってしまうところは田舟を使用して、束ねたものを入れて、田舟をひきずりながら稲刈りをしました。



稲刈り（芹沢）※9

稲を刈った後の束ね方は、稲を干すかけぼしの方法の違いにより、大束にする家と小束にする家がありました。大束にする家では畔に10日間くらい立てかけておき、乾燥させ、軽くしたのちに、家の周辺に運び小束にして段がけにして干しました。

また小束にする家は、田に1段で「かけぼし」します。



かけぼし（段がけ）

田舟 ※10

芹沢では段がけよりも一段がけのほうが良く乾くため、1段がけのところが多かったです。

かけぼしは、お米の水分量が14～15%くらいにまで下がる、だいたい2週間くらい、天気が悪ければ20日間くらいかけて行います。



一段がけ

一段かけの足組み

稲刈りは霜柱^{しもばしら}がたっているような時期^{じき}に田んぼ^{あし つめ}に入るのでの足は冷たくて
しびれてしまって、子どもの頃^{ころ}は手伝い^{てつだ}をする事^{こと}はとても嫌^{いや}なものでした。こ
どもは他^{ほか}にも1段^{さい}がけのかけぼしする際の足組み^{あしぐ}をつくるときの材料^{ざいりょう}（竹^{たけ}）
を運ぶ手伝い^{てつだ}をしました。



耕^{たがや}した畑^{むぎ}に麦^まを蒔^まきます。



このあたりでは、麦は「大麦^{おおむぎ}・小麦^{こむぎ}・ビール麦^{しゅるい}」の3種類^{しゅるい}
を作^{つく}っていたんだって。



あき さとやま い もの いちれい 秋の里山の生き物（一例）



アオダイショウ

ぜんちょう センチメートル どう ちよっけい
全長 100-200 cm、胴の直径は5 cmほどに
なり、日本本土で最大のヘビです。人との関わりが深
く、耕地や人家の近く、公園や河川敷などにも生育して
います。



クツワムシ

いろ みどりいろ かっしょく たいちょう ミリメートル
からだの色は緑色と褐色がある。体長 50~70 mm
で食草はクズ、マメ科植物の葉を好む。林の下草に住み、
夜間活動する。ガチャガチャと大きな声で鳴く秋の虫で
有名。柳谷では数カ所できくことができる。卵で越冬す
る。茅ヶ崎準絶滅危惧種。

ときわ こ ころ つか
常盤さんが子どもの頃よく捕まえたクツワムシは、
いま ちがさきし じゅんぜつめつき ぐしゅ
今では茅ヶ崎市の準絶滅危惧種なんだね。



今年の実と来年春に咲く花の冬芽

ハンノキ 秋の実と冬芽

しっち みずべ は き あき じゆく は
湿地や水辺に生える木です。秋に実が熟したころには葉は
落ちてしまいますが、来年に咲く花のつぼみがすでにでき
ています。花には雌花と雄花の別があり、垂れ下がる雄花
の冬芽は秋から冬にかけて遠くからでも目立つ明るい
褐色をしています。柳谷には谷戸底の湿地や芹沢の池周辺
に生えています。



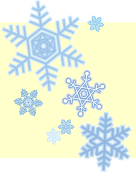
ジョロウグモ



アキアカネ



カマキリの卵



ふゆ さとやま く 冬の里山の暮らし



がつ
12月

田 ^{しゅうかんていど} 2 週 間 程 度 かけ ぼ した 稲 から ^{いね} 籾 だけ を 取 り 除 き (^{もみ} 脱 穀)、^と 籾 す り を し ま した。籾 す り と は 籾 从 籾 殻 を 取 り 除 い て 玄 米 に す る 作 業 で す。

いえ しごと 家の仕事

当 時 は 茅 葺 屋 根 だ っ た の で、少 し の 火 で も ^{またた} 瞬 刻 間 に 火 事 に な っ て し ま う の で、お じ い ち ゃ ん や お 父 さん は、山 火 事 や 近 所 で 起 こ り う る 火 事 に 備 え、家 の 周 り の 枯 れ 草 等 を 片 付 け ま した。



茅 葺 屋 根 と は 茅 (主 に ス ス キ) を 材 料 に つ く っ た 屋 根 だ よ。(写 真 : 旧 和 田 屋 住 宅 (萩 園) 市 指 定 文 化 財 ※ 11)

お ば あ ち ゃ ん や お 母 さん は 買 い 物 に い き ま した。
昔 は、タ ビ ・ 下 駄 ・ 手 桶 な の 日 用 品 や 衣 類 や 羽 子 板 などは 正 月 に 備 え る も の で し た。正 月 料 理 に 使 う 塩 鮭 や 正 月 飾 り な ど を 売 る 市 が た っ て、そ こ で 衣 類 な ど も 購 入 で き ま した。

子 ども は こ の と き に 着 る も の ・ 羽 子 板 な ど を 購 入 し て も ら え た の で、お 正 月 は 大 変 い い も の で し た。



1月

家の仕事

1 5 日 ま で は 仕 事 は せ ず、^{あいさつ} 挨拶 な ど を し ます。雪 が 降 る 前 に 茅 葺 屋 根 用 の 茅 を 刈 り、刈 っ た 茅 は 横 に 積 む こ と で 重 み を よ っ て 厚 み を 少 な く し、屋 根 葺 き し や す い よ う に し ま した。他 に も 燃 料 の た め の ク ズ か き (落 ち 葉 掻 き) を し ます。集 め る 落 ち 葉 は 油 分 を 含 む 松 の 葉 が 一 番 い い も の で し た。



さとやま にちじょうせいかつ 里山の日常生活

のうか ふくぞう 農家の服装

しょうわしよき
昭和初期からすでに着ものではなかつたのですが、じよせい て たまえか
女性の手ぬぐいをし、田前掛けと呼ばれる八百屋さんの前掛けのよう
なものをしていました。昭和30年頃になると、じかたび きほんてき
地下足袋はありましたが、基本的には畑も田も裸足が普通でした。

て てぶくろ すで ふつう のうか
手も手袋がないので素手が普通の農家の格好でした。11月の稲刈りの時には霜柱がたっていたり、こおり は
氷が張っていましたが、それでもはだし はい こ ころ ほんとう てつだ いや
裸足で入りました。子どもの頃は本当に冬の手伝いは嫌なものでした。つめ しだい あし
冷たさは次第に足がしびれてしまって感じなくなりましたが。



の もの 乗り物

じてんしゃ ある
乗り物は自転車くらいしかなく、すべて歩きでした。

かちく 家畜

かくのうか にわとり ぶた ば とう
各農家に、鶏と豚は100羽くらい、豚は1頭くらいいました。むかし いま た もの きちよう
昔のほうが今よりも食べ物が高重だったので、しょうわ ねん たまご かかく
昭和32、3年でも今よりも卵の価格は高かったです。そのため農家は年に2回しかない
しゅうにゅう かい
収入のほかに、鶏を100羽くらい飼ひ、卵を売って、生活の足しにしていました。

うし うま
土を耕すために、牛や馬を飼っているところもありましたが、このへんにはいませんでした。昭和35
年くらいになると、すき きかい はい
犁のような機械が入ってきました。



**いのちの
生き物**

イタチがたくさんいて、イタチに鶏をよく食べられました。

へび蛇は今よりも多く、アオダイショウ、ヤマカガシ、シマヘビの3種類くらいがいました。マムシの数は今も昔も変わらないと思います。

キツネやタヌキ等は少なかったです。



山には鳥もあまりいませんでした。今は鳥がすごく増えてきているように感じます。中学生くらいになるとみんな空気銃をもって歩いていたが、山に鳥が少なかったのほかに他の家の前にいて見つけていたくらいです。



ふゆ さとやま い もの 冬の里山の生き物（一例）



オオカマキリの卵



かき 柿の木に来る鳥



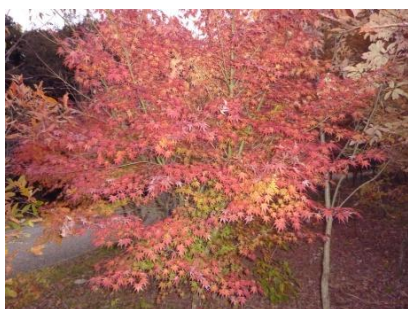
ハラビロカマキリ



サクラの冬芽



ドングリ（コナラ）の発根



イロハモミジ



ムラサキシノブ



ミノガ

だい き さとやま たい き せ き 第二期里山はっけん隊の軌跡

※「里山はっけん隊！」は、四季を通じて茅ヶ崎の自然を体感する、親子参加型のイベントです。

第一期生は平成20年度、21年度で活動し、第二期生は、平成22年度に2回（夏・冬）、平成23年度に2回（春・秋）の合わせて4回活動し、四季の移り変わりを体感しました。

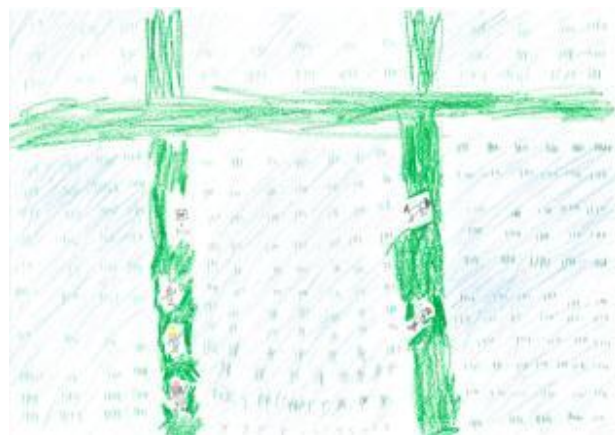


◎第1回里山はっけん隊（夏）（9月4日開催） 参加者12組32名
自然観察・ワークショップ・おやつは茅ヶ崎から昔から伝わる「芋団子」。

◎第2回里山はっけん隊（冬）（12月4日開催）参加者8組28名
自然観察・ワークショップ・おやつは「特製おにぎり」。茅ヶ崎産の「湘南タゲリ米」と「小出の黒米」でした。

◎第3回里山はっけん隊（春）は雨天のため中止になりました。

◎第4回里山はっけん隊（秋）（10月29日開催） 参加者8組23名
自然観察・ワークショップ・おやつは「焼きビン」でした。



なつ さとやま たい ようす 夏の里山はっけん隊の様子

① 茅ヶ崎に残された里山を巡り、その素晴らしさを知り、
後世に伝える…それが「里山はっけん隊！」の使命なのです。



② 「日本の里山って、人が、動物、植物、昆虫などの
自然とともに生きてきた、すごいところなんです！！」
「柳谷の自然に学ぶ会」の野田さんから、里山について
のお話を伺いました。



③ これはナンバンカラムシ。昔はこの植物の繊維を
使って織物を作っていたんですって。



④ 夏の里山は昆虫の宝庫。いろんな種類のチョウや
バッタやクモに会えました。



⑤ コブナ、アメンボ、ゲンゴロウ…水辺には水生
生物がたくさんいました。
人間がお米を作るために水路を作ること、たくさんの
生き物を育む環境が生まれます。



⑥ 田んぼと水路と斜面林。美しい里山の風景は、
人の手によって、昔から守られてきました。
「この風景をいつまでも残しておきたい」
参加したお母さんが思わず口にしました。



- ⑦ 午後のワークショップでは、地元^{じもと}に長く暮ら^くしている方に、昔のお話^{はなし}を伺^{うかが}い・・・



- ⑧ みんなで絵を描^えいて発^か表^{はつひょう}しました。
「これは釣^つりをしているところ^{ところ}です」茅ヶ崎でも昔^{むかし}は
ドジョウやウナギ^とが捕^とれたんですって。
よく描^えけたね！



- ⑨ お楽^{たの}しみの手^て作^{つく}りおやつタイム！
茅ヶ崎に昔から伝^つわる「いもだんご」です。



- ⑩ どんな味^{あじ}かな？みんな興^{きょう}味^み津^{しん}々^{しん}でした。



ふゆ さとやま たい ようす 冬の里山はっけん隊！の様子

① 澄^すみ切^きった冬^{ふゆ}晴^ばれの一^{いち}日^{にち}！

富士^{ふじ}山^{さん}の姿^{すがた}も美^{うつく}しい、初^{しよ}冬^{とう}の里^{ある}山^{さん}を歩^{ある}きます。



② 午前^{ごぜん}中^{ちゆう}は「柳^{やなぎ}谷^{やと}の自然^{しぜん}に学^{まな}ぶ会^{かい}」の皆^{みな}さん^{さん}の案内^{あんない}で、
自然^{かん}観^{さつ}察^{おこな}を行^{おこな}いました。



③ これは珍^{めづ}しい！カマキリと、産^うみたての「卵^{らん}のう」
を発^は見^{けん}しました。



④ 赤^{あか}、黒^{くろ}、青^{あお}・・・冬^{ふゆ}の里^{さと}山^{やま}では、可^{かわ}愛^い実^みのなる
植^{しょく}物^{ぶつ}がた^たくさん見^みられま^ます。



⑤ 見^みつ^つけ^けたもの^{もの}は「はっけんカ^かー^あド」に記^き録^{ろく}しま^ます。
カ^かー^あドはた^たくさん集^あま^あったか^かな？



⑥ こ^こは「冬^{ふゆ}水^{みづ}田^{でん}ん^ぼ」。冬^{ふゆ}でも水^{みづ}を張^はるこ^ことで、
水^{すい}生^{せい}生^{せい}物^{ぶつ}や鳥^{とり}た^たちの生^{せい}育^{いく}環^{かん}境^{きやう}が守^{まも}れるん^んです^すって。



⑥ そ^ごの^ごころ、午^{かい}後^{じよう}の会^{やと}場^{いえ}「谷^{やと}の^{いえ}家^{いえ}」では、か^かま^まどで
「お^おや^やつ^つタ^たイ^いム」の準^{じゆん}備^び中^{ちゆう}



⑦ じゃ～ん。ほかほかご飯が炊きあがりました！



⑧ 午後のワークショップでは、地元^{じもと}に長く^{なが}住^すで
いる方^{かた}にお話^{はなし}を聞^ききました。昔^{むかし}のお正月^{しょうがつ}は、
今^{いま}よりもっと楽^{たの}しみなものでした^すって。



⑨ お話^{はなし}をみんな^えで絵^えにし^て発表^{はっぴょう}しました。
「これは、昔^{むかし}の農家^{のうか}の人^{ひと}たちが働^{はたら}いている様子^{ようす}です。
子守^{こも}りをしてい^る子ども^{こども}や、薪^{まき}を集^{あつ}める人^{ひと}たちが
描^かかれています。



⑩ 大^{だい}好^{こう}評^{ひょう}のおやつ^{おやつ}タイム。「里山^{さとやま}はっけん^{はっけん}隊^{たい}！特製^{とくせい}
おにぎり」は、茅ヶ崎^{さか}産^{さん}の「湘南^{しょうなん}タゲリ^{たがり}米^{まい}」と
「小出^{こいで}の黒米^{くろまい}」で作り^ました。



⑪ 地^ち域^{いき}に昔^{むかし}から伝^{つた}わる「ゲンノショウコ茶^{ちや}」も振^ふる
舞^まわれ、和^{なご}やかな雰^{ふん}囲^{いき}気のワークショッ^{くしょく}プとな^りまし
た。



⑫ おみやげは、里山^{さとやま}はっけん^{はっけん}隊^{たい}！オリジナル^{けいたい}携^け帯^{たい}ス
ト^らップと黒米^{くろまい}の穂^ほを1束^{たば}です。



あき さとやま たい ようす 秋の里山はっけん隊の様子

①市役所西側駐 車 場から里山公園に、神奈 中 の大型バス
にのって向かいます。光 がまぶしい！晴天です。



②午前中は「柳 谷 の自然に学ぶ会」の皆さんのご協 力
による「自然観察」です。



開会式では、今、新女王の誕 生の前に警戒を強めてい
るスズメバチには特に注意するよう、説明がありました。

③早速、はっけん！コオロギだ。



④赤いトンボはみんな「アカトンボ」だって。
見つけたのはアキアカネ。



⑤実りの秋を感じます。

可愛い木の実がいっぱいあったね。



⑥あっという間に時間が経過します。

途中の東屋で一息つきながら里山の歴史についてお 話
いただきました。



⑦里山公園付近で縄 文 時代の土器が発見されていたなんて
知っていましたか？



⑧ ちょっとここでひと遊び。

そばに生えていたチカラシバの穂を根の方から
引っ張ると…あっ！ハリネズミみたい。



⑨ 田んぼの近くにある崖より、箱根火山と富士火山の噴火
の歴史がよくわかる地層が見えます。箱根から火砕流、
富士山の噴出物がここまで届いたなんて…
自然の力はやはり強大です。

⑩ 田んぼの土手で、稲作により形成された里山の生態系に
ついてお話を聞きました。



⑪ 雑木林を歩いていると、根株が複数にわかれている
サクラの木がありました。根株が枝分かれている木は、
人が循環的に資源として活用した証拠です。



⑫ お昼を食べた後、ワークショップの時間です。
地元の方に里山での昔の生活についてお話いただき
ました。



⑬ 今日、発見したことなど絵に書いてまとめました。



さとやま
♪ 里山ティータイム（おやつレシピ） ♪
しぜん
自然のめぐみをいただきます！



「いもだんご」

ざいりょう やく こぶん
材料（約40個分）

- ・いもの粉 500g
こな
- ・水 適量
みず てきりょう
- ・さつまいも 適量
てきりょう

Memo

「いもだんご」は茅ヶ崎で昔から食べられてきたおやつ。最近では、姿を消しつつありますが、古くから地元で暮らす人には懐かしい、ふるさとの素朴なおやつです。

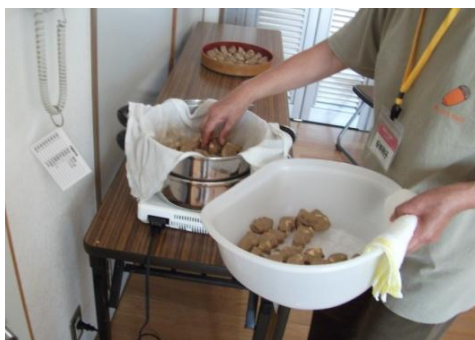
「いもの粉」は、さつまいもを薄切りにし、乾燥させた後、粉にしたもの。1月頃から地元の八百屋さんで売られるほか、インターネット等で、パック入りのものが購入できます。

- ① いもの粉に水を少しずつ入れ、丸められるぐらいの固さに練ります。
こな みず すこ い まる
- ② さいの目に切ったさつまいもを①に入れます。
め き
- ③ ②を食べやすい大きさに丸め、軽く握るようにしてかたちづくりします。
た おお まる かる にぎ
- ④ 蒸し器で約15分ほど蒸してできあがり♪
む き やく ふん む



今日のドリンク「ドクダミ茶」 ほんじつ

- ① 6～7月に、花の咲いているドクダミを、根本から刈り取ります。
がつ はな さ ねもと か と
- ② ①を束ねて1週間～2週間、カラカラになるまで軒先などに干します。
たば しゅうかん しゅうかん のきさき ほ
- ③ 干し上がったら、2、3センチに刻んで、密閉容器に保存します。
ほ あ きざ みっぺいようき ほ ぞん
- ④ 熱湯で煮出していただきます。量は好みで調節してください。
ねつとう に だ りょう この ちょうせつ



♪ 里山ティータイム（おやつレシピ） ♪

自然のめぐみをいただきます！



「里山はっけん隊！特製おむすび」



ざいりょう ちい たく せい
材料（小さめのもの約70個分）

- しょうなん まい しょう
・ 湘南タゲリ米 1.5 升
- くろまい てきりょう
・ 黒米 適量
- みず てきりょう
・ 水 適量

- ① タゲリ米と黒米を混ぜて
30分以上水に浸しておく。
- ② かまどに火を入れ、ご飯を炊く
(火入れ～炊きあがりまで約40分)。「谷の家」にある「かまど」でご飯を炊きます！
- ③ おむすびに握ってできあがり♪



メモ：「湘南タゲリ米」と「谷戸の黒米」

「湘南タゲリ米」は、渡り鳥「タゲリ」の飛来地を守るため、茅ヶ崎の自然保護グループが、タゲリが越冬する田んぼの農家から、高く買い取り販売しているお米です。「谷戸の黒米」は、夏の里山はっけん隊！で、みんなで観察した柳谷の田んぼでとれたお米で、市民グループの方たちが休耕田を整備してつくっています。「里山はっけん隊！」では、この2種類の茅ヶ崎産のお米を使って「特製おむすび」を握ります！

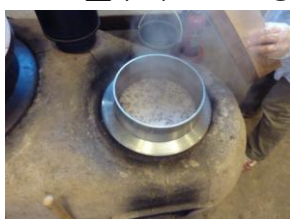


今日のドリンク「ゲンノショウコ茶」



- ① 7～10月の開花期に、ゲンノショウコを、根本から刈り
とります。
- ② ①を陰干しして、2～3センチに刻んで、密閉容器に保存 | ©Shogakukan
- ③ 熱湯で煮出していただきます。量はお好みで調節してください。

※ゲンノショウコには整腸効果があるとされ、飲むとすぐ効果が
現れるので「現の証拠＝ゲンノショウコ」と呼ばれるようになった
といわれています。



さとやま
♪ 里山ティータイム（おやつレシピ） ♪
しぜん
自然のめぐみをいただきます！



「よもぎ団子」

ざいりょう やく こぶん
材料（約40個分）

- ・よもぎ 約400g
- ・上新粉 400g
- ・砂糖 80g
- ・熱湯 適量

「よもぎ」ひとくちメモ

べつめい 別名「もちぐさ」とも呼ばれ、香り高い若
な むかし 菜は昔から、くさもち、よもぎもちの材料と
した して親しまれています。薬効効果が高く、
きゆう げんりよう 「お灸」の原料となるほか、その葉をмонде
きずぐち しけつざい 傷口にあてて止血剤としても用いられてい
ました。



©Seisyohmaru

- ① よもぎのやわらかい葉を摘んで、塩少々を入れた熱湯でさっとゆがき、冷水にさらす（葉が固い場合は塩の代わりに重曹を入れるとよい）。
- ② ①の水気をしぼって細かく刻む。繊維が気になる場合は、さらにすりこぎですりつぶすか、ミキサーやフードプロセッサーで細かくする。
- ③ 上新粉と砂糖をあわせ、箸で混ぜながら熱湯を少しずつ加え、耳たぶくらの固さになったら、手でこねてひとまとめにする。
- ④ ③をひと握りにちぎって平たくまとめ、蒸し器に並べて20分ほど蒸す。
- ⑤ ④をひとまとめにして②を加えて、手に水をつけながら均等にこねる。
- ⑥ お団子状に丸めてできあがり♪ きなこやあんこを付けてもよいです。



本日のドリンク「ビワ茶」

- ① 摘み取ったビワの葉を水洗いし、ほこりや葉の裏側の産毛をとります。
- ② ①を陰干しして、2～3センチに刻んで、密閉容器に保存します。
- ③ 熱湯で煮出していただきます。量はお好みで調節してください。

※ビワの葉には、自然治癒力を高めるというアミグダリン

（ビタミン17）という成分が含まれ、奈良時代にはすでに

薬として使われていたそうです。身近な庭木に、そんなパワーがあるなんてすごいですね！

♪ 里山ティータイム（おやつレシピ） ♪

自然のめぐみをいただきます！



「焼きびん」

ざいりょう やく ぶん
材料（約8枚分※）

- ・水 約1カップ
- ・小麦粉 約3／4カップ
- ・砂糖 大さじ3

※1 1枚の大きさはおせんべい程度

※2 砂糖の量は好みで調整ください

「焼きびん」ひとくちメモ

「焼きびん」とは、その土地、その家庭で受け継がれている郷土料理です。

そのため地域により材料は異なりますが安く簡単にできる焼きびんは懐かしいお母さんの味だそうです。茅ヶ崎の地元の方に伺うと貧しかったころ、お米が買えなかったためお弁当として焼きびんを持っていったこともあったそうです。昔はお米は裕福な証拠だったとか。今とは随分異なりますね。

- ① 材料をすべてよく混ぜ合わせる。
 - ② フライパンに油をひき、薄く広げ、両面を焼く。
 - ③ うっすら焦げ目がついたら出来上がり♪
- 砂糖の代わりに蜂蜜を入れてもいいですよ。また、卵やさつまいもを裏ごししたものを生地に加えてもおいしいです。



本日のドリンク「柿の葉茶」

- ① 6～10月の日中、葉を取ります。
- ② ①を洗って乾かし、細かくきって直射日光を避けて乾燥させ、保存しておきます。
- ③ 熱湯で煮出していただきます。量はお好みで調節してください。



©SakuraeKuwachaSeisanKumiai.

※柿の葉にはビタミンCがなんとレモンの20倍も含まれているそうです。ビタミンCは水や熱に弱いものですが、柿の葉茶に含まれているのはプロビタミンCといい、お茶にしてもビタミンCが破壊されずに体内に取り込めるそうです。ノンカフェインでお子さまにも妊婦さんにも優しい飲みものです。

写真出展

- ※1 茅ヶ崎市、写真集茅ヶ崎—きのう、きょう—（昭和62年10月1日）、P314
- ※2 茅ヶ崎市、写真集茅ヶ崎—きのう、きょう—（昭和62年10月1日）、P313
- ※3 茅ヶ崎市、茅ヶ崎市史3 考古・民俗編（昭和55年3月31日）、P
- ※4 茅ヶ崎市、写真集茅ヶ崎—きのう、きょう—（昭和62年10月1日）P315
- ※5 茅ヶ崎市、写真集茅ヶ崎—きのう、きょう—（昭和62年10月1日）P143
- ※6 茅ヶ崎市、写真集茅ヶ崎—きのう、きょう—（昭和62年10月1日）P214, 215
- ※7 茅ヶ崎市、写真集茅ヶ崎—きのう、きょう—（昭和62年10月1日）P215
- ※8 茅ヶ崎市、茅ヶ崎市史3 考古・民俗編（昭和55年3月31日）、P144, 145
- ※9 茅ヶ崎市、茅ヶ崎市史3 考古・民俗編（昭和55年3月31日）、P317
- ※10 赤来町の昔 <http://www.iinan-net.jp/~odasho/ayumi-01/170100.htm>
- ※11 茅ヶ崎市役所 http://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/shisetsu/s_kyoiku/006465.html

※絵画は、平成22年度、23年度開催の「里山はっけん隊」の午後のワークショップの中で、参加してくれた子どもたちが描いてくれたものです。

